

# 特別支援教育研究部

## 1 研究主題

「子ども一人ひとりの願いを生かし、主体的に生きる力を育む特別支援教育」  
～多様なニーズと教育課程～

## 2 研究主題について

個別支援学級在籍児童数の増加、個の実態の多様化、知的障害学級と自閉症・情緒障害学級のカリキュラムの違いなど多様なニーズに応じた研究の推進とそれに伴った教育課程や教科指導、教材の工夫や実践などをより深めることを目的として設定した。

## 3 研究方法

部会を三つに分け、A部会とB部会は、区のA/B研の教科とリンクできるように、C部会は自立活動や生活単元学習など、個別支援学級ならではの教科領域を扱う部会として研究を深めた。会員からアンケートを取り、毎回の部会のテーマをニーズに合わせて決定した。学級経営の様子や教室環境などについて、その場で情報共有できるように、部会を様々な方面の学校で行うこととした。

また、「児童をよりよく理解し支援していくためにはシリーズ」として、外部講師を招いて年3回の合同研修会を計画・実施した。

コロナ禍であった今年度は、講演会や部会、第二次教育研究大会、一斉授業研究会など、ICTを活用して研究を進めた。

## 4 年間活動報告

4月	・書面総会 ・総会講演会 【オンライン開催】 「知的障害や発達障害のある子どもたちの性教育～今後の実践につなげるために～」 講師 東洋大学 福祉社会開発研究センター 客員研究員 津田塾大学 インクルーシブ教育支援室コーディネーター 門下 祐子 先生
5月	・研究部会合同研修会【オンライン開催】 「児童をよりよく理解し支援していくためにはpart 1 子どもに寄り添うということ」 講師 明星大学 教授 星山 麻木 先生 ・幹事部長会、拡大役員会、本部役員会
6月	・研究部会①（A・B・C）
7月	・研究部会②（A・B・C）【オンライン開催】 ・幹事部長会、本部役員会 ・幼保小連携研修会分科会
8月	・夏季実技研修会 会場：こどものアトリエ
9月	・研究部会合同研修会【オンライン開催】 「児童をよりよく理解し支援していくためにはpart 2 保護者のキモチ、教師のキモチ」 講師 教員・保護者 佐々木 可愛 先生
10月	・研究部会③（A・B・C）
11月	・市一斉研指導案検討会 ・幹事部長会、拡大役員会、本部役員会【オンライン開催】
12月	・市一斉授業研究会【オンライン開催】 ・小中役員連絡会【オンライン開催】
1月	・横浜市小学校教育研究会第二次教育研究大会特別支援教育部会【オンライン開催】 ・横浜市立学校総合文化祭図画工作・美術・書道作品展 特別支援教育部門
2月	・研究部会④（A・B・C）【オンライン開催】 ・横浜市小学校個別支援学級・特別支援学校合同学習発表会

3 月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究部会合同研修会【オンライン開催】 「児童をよりよく理解し支援していくためにはpart 3 インクルーシブ高校の取り組みについて」 講師 県立霧が丘高校 小松 圭太先生</li> <li>・ 幹事部長会、拡大役員会、本部役員会</li> </ul>
--------	--

## 5 研究の成果と課題

### 【第二次教育研究大会】

- ＜第1分科会 中区＞発表者 本牧南小学校 加藤 萌 先生  
 テーマ「子どもの願いを生かし、主体的に生きる力を育む指導の在り方  
 ～日常生活で主体的に生きる力を育む、各教科・領域における指導法の追求～」
- ＜第2分科会 旭区＞発表者 中沢小学校 伊藤 由希 先生  
 テーマ「子どもたちが学習に生き生きと楽しく取り組むための支援の在り方」
- ＜第3分科会 B部会＞発表者 左近山小学校 松本 歩美 先生  
 帷子小学校 鈴木 尚子 先生  
 テーマ「子ども一人ひとりが主体的に生きる力を育んでいく授業を目指して」  
 ～子どもの実態に応じたねらいと手立て、場の設定の工夫～

### 【市一斉授業研究会】

4会場で実施

オンラインによる授業のライブ配信での授業参観と協議会を行った。

緑区 緑小学校 社会科「未来につながる情報」 久米田拓記

青葉区 青葉小学校 算数科「形であそぼう」 安井千明、馬場順一

鶴見区 旭小学校 自立活動「作業を通してコミュニケーションを深めよう」

福井遼太、麻尾恭一、中西有希、西川和美、馬場聖可、成田奨、原千恵

港北区 北綱島小学校

生活科・総合的な学習の時間「コロナに負けるな～ぼくのRELAX BOX (Relax Box)～」

平原広大、栗山智子、浦川民子、渡部千恵美

### 【成果と課題】

- 児童理解と支援をテーマに3回シリーズで合同研修会を行った。講師の協力を得て、3回ともZOOMにて講演会を行った。申込みやアンケートはQRコードを使い、資料は、学校共有フォルダーや部会ごとのGoogle クラウドからダウンロードするようにした。また、チャット機能を使い、講師への質問等をその場で受け付けられるようにした。授業後に自校より視聴できるため、参加者が多く、好評だった。
  - 市一斉授業研究会では、オンラインでの授業のライブ配信のため、来校者が少なく授業校の負担が減り、児童も普段通りに授業に参加できた。また、参観者や授業者にとっても、出かける負担がないことや印刷等の作業がないなどメリットが多くあった。
  - 第二次教育研究大会において、ZOOMを活用した。活用2年目となり、スムーズに行うことができた。また、参加者は多く、テーマに対するニーズの高さがうかがえた。
  - 部会については、日頃行っている授業について、情報共有を多く行うことができた。また、集合開催時は時間になっても参加者が到着しないことが多かったが、オンライン開催の場合は時間通りに始めることができた。
  - オンラインでの開催も多く、主催者側も参加者側もスムーズに運営、参加できるようになってきた。集合での開催の方が良い場合（授業研究会など）やオンラインでの開催が良い場合（講演会など）など、理解が進んだ。
  - ▼オンラインでの研究会では、協議を深めることが難しい場面も多々あった。小グループに分けて協議を行うなど、開催の仕方には工夫が必要である。
- 以上の成果と課題をもとに、次年度以降もオンラインを積極的に活用して、研究を深めていきたい。